



サロンあべの

「サロン・にし」あれこれ物語

みんなの楽しそうな「笑顔」が、私の活動栄養源です！

〈サロン・あべの〉7月の出会い
 平成17年7月16日(土)午後1
 時〜4時、〈サロン・あべの〉7
 月の出会いは「サロン・にし」の
 宮脇淳さんをお迎えして、「サロ
 ン・にし」のあれこれ物語を伺い
 ました。

・「サロン・にし」の発足

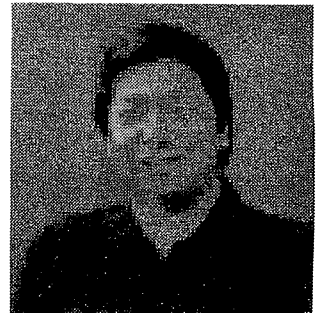
「サロン・にし」は、1999
 年7月からスタートした。今年
 で6年目になる。サロン活動を
 始める前(1997年ごろ)は、
 私が住む西区周辺の仲間と「遊
 びに行くサークル」活動をして
 いた。その人達がよってサロン
 活動を始めた。毎月第2土曜日
 の午後、西区在宅サービセン
 ターで開催し、老若男女が集ま
 り、世代間交流の場になってい
 る。

「サロン・にし」の合言葉は「人
 生いろいろ、輝いて生きよう」
 これをテーマに毎月のサロン活

動を進めている。今回は、このよ
 うな機会を得て「サロン・にし」
 の紹介が出来てうれしい。毎月
 のサロン活動を通して、多くの
 皆さんに出会い、楽しそうな笑
 顔を見られるのが私の活動栄養
 源になっている。この6年間で
 振り返って、本当にそう思う。

・自己紹介

体育の先生を目指していた大
 学1年の時、交通事故で頸椎を
 損傷した。その後、電動車いす生
 活を送ることになった。事故当
 時は、自分の姿が恥ずかしく人
 に見られたくない、会いたくな



みんなの楽しそうな「笑顔」が、私の活動栄養源。と宮脇さん

いと思っていた。しかし、病院で
 同じ障害の仲間励まされたり
 して、なんとか立ち直ることが
 出来た。退院後は俗に言う「ブー
 太郎」を1年半ほど過ごした。そ
 の間、近くの図書館に毎日通つ
 た。パリアフリーで冷暖房付、職
 員とも顔なじみになり、行きや
 すかった。ジャンルを問わず、と
 にかく本を読みあさり、1年半
 で約1500冊を読破した。こ
 の図書館通いが自分の人生に

とつての充電期間となった。本
 を読んで学んだことは、「最初は
 小さな粒の集まりであるけれど、
 その小さな集まりがあるからこ
 そ、大きな力となり、大きな波に
 なる」ということ。つまり、少し

極端に言えば「世界人類の幸せ
 は、自分の身近な人々の幸せの
 粒があればこそ。その幸せの粒
 の集まりが、家族となり、地域と

なり、国になり、世界になる。だ
 から、身近な幸せの小さな粒の
 集団が地球である」と
 感じた。

20年前は、バスや地
 下鉄など交通機関のバ
 リアフリーは、不十分
 であった。誰もが利用
 しやすい交通機関にな
 るようにと運動をした
 り、外出もどんどんし
 た。体が不自由な人も
 地域で生活をしている
 ことを多くの人に知つ

長い長い手紙を
 母に書いている
 八月三十一日の夜

—— 俵 万智
 (サラダ記念日)

サロンの
 一筆箋

一冊一〇〇枚綴り一五〇円

てもらえるように実践していっ
 た。

・サロン活動

サロンを開催することによつ
 て、いろんな人が出会い、悩みや
 障害を持つ当事者の思いを聞き
 て、こういう人もいると、理解し
 てもらうことが大切だと思う。

「サロン・にし」では、季節や
 みんなの要望に即した内容で毎
 月のテーマを持つている。

書初め・秋祭り・クリスマス
 会・お菓子作り・絵手紙・手話や
 点字の初歩学習など、内容も多
 岐に渡り、いろいろなテーマを
 企画して皆さんの参加を待つて
 いる。

・最近のちよつと いい話

「サロン・にし」での「ちよつ
 といい話」を二つ。

①車いすとメガネ

「サロン・にし」の、「車いす体
 験」に参加されたメガネをかけ
 た健常者の女性の感想として、
 車いすとメガネは同じ感覚の物
 であり、特別な物でなく、生活で
 不便な部分を補助するための道
 具で、車いすとメガネは同じで
 あることを学んだ、と、述べられ
 た。

②声をかけることの大切さ

横断歩道で通行人の男性が視
 覚障害の方へ「お手伝いしま
 しょうか」と声をかけ、視覚障害
 の方は、「大丈夫ですから、お手
 伝いはいりません」と返事をさ
 れた。男性はその出来事を友人
 の肢体障害の方に話をする
 と「何もお手伝いをしなかったの
 はなく、声かけ自体がすばらし
 いお手伝いで、そこからさまざま
 まなストーリーや発見がある」
 と言われた。男性は声をかける
 ことの大切さ、重要さを改めて

知った。

・これから

「サロン・にし」は、これからも、共生・共存・共有のため、テーマを設けて話合える場にして

休後、参加者から感想や質問を聞きました。

きたい。また、「みんなが主役」ということで、対等な立場で

他のサロンの特徴を聞いてよかったです。

子どもには、やりたいことを見つけて追い続けてもらいたい。

(見出し)中西利香・筆
(参加者19名 山村貴司)

なが話し合える人に出会えるコミュニケーションする大切な場でありたい。

今日は2回目のサロン参加。自分は新しいサロンを「作りた

サロン活動を通じて、いろいろな人の出会いがある。今回は後3カ月の赤ちゃんも参加して

「にしよ」と思っているのが、前月の「にしよ」と違ったサロンが聞

くれた。小さな粒でも出来る範囲で活動が続けることが大切であると感じた(サロン・あべの)7

車いすダンスに興味がある。

月の出会いでした。

サロンと私

通うのがとても楽しみでした。

に、本当に感謝します。

その後、ボランティアとしての活動を始めてみるのですが、「えっ、おっちゃんとお出かけ? (失礼なことを・・・) 電動車いすなの? 文字ボードなの?」「全然わからへんやん・・・」と、初めての事だらけが山積みでした。

目指していた保育士への道にすみ、結婚・・・、子ども3人にも恵まれ、バタバタと過ぎていった15年もの間に、毎月毎月いろいろな情報をくださったのがサロン紙です。今は高齢者介護の仕事について6年目。課題が多いこの仕事でも、サロン紙を見せて

緊張する私に、「ベッピンさんが来てくれたの? 大丈夫やで! 頑張るんやで!」

ただきながら勉強の毎日です。

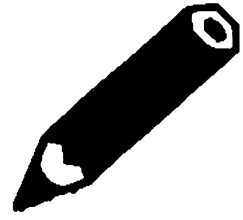
高校3年生の頃、「ボランティアセミナー」という広告が目にとまったのが(サロン・あべの)との出会いでした。車いすの使い方、手話など、初めての体験がいっぱい、毎回

と、一つ一つ文字を指差しつつ教えてくださったSサン・・・。どちらがボランティアだったのか。温かく見守ってくださいましたこと

こんな私を育てていただいたサロンの方々にこの場をかりてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いたします。

(千代松真佐子)

19



邦子、 ..ん歳の手習い。

障害者の自立生活 — 森修さんの場合 —

私は、今、大阪の障害者の自立生活運動を中心に勉強しており、先日、脳性マヒの障害者である森修さんにお話を聞かせて頂きました。森さんは76年から86年まで大阪青い芝の会の会長を務め、本も出されており、現在は四条畷市で障害者支援の活動を中心になつてされています。以下、森さんの本とお話を基にして、森さんの自立生活運動について紹介させていただきます。

森さんは大阪青い芝の会の在宅訪問を受けたことがきっかけとなって大阪青い芝の会に

入会しました。彼に入会を決意させたのは、言語障害がきつくと、5時間かかってやっと

言っていることが理解できるような障害者の「お前、このまま死んでもええんか。どうせ

死ぬなら外の空気を吸って死んだ方がええんと違うか」「親が死んだらどうするのか。コロニーに入るか」という言葉でした。彼はそ

れまで、地域で障害者のサークル活動にも参加していましたが、軽度障害者のペースで物

事が進んでいき、森さんのような重度障害者は取り残されるような感じを受けていまし

た。そんな中で森さんは自分が重度障害者であると思っていました。しかし、青い芝と出

会って、森さんは自分よりも重度の人がいるということを知り、それまでの視野の狭さに

気づきました。森さんは75年に金満里さん（現・劇団態変

主宰）が大阪で初めて自立生活をやる時に、生活保護や福祉電話の支給を求めて大阪市と

交渉したときのことを次のように語っています。「今でこそ、都会では障害者の自立に生

活保護を活用することが一応認められているけれども、当時は、行政も社会も障害者の自

立に対して、『何を無理なことをいつている



ありがとう。20年

<サロン・あべの>は20年になります。

のか』という対応であった」その頃、行政は青い芝のようなグループを全然認めていませんでしたが、76年に、初めて大阪市と正式に行政交渉を3日間行い、森さん達は、重度障害者の自立生活と青い芝の活動意義を認める事を大阪市に要求しました。そして、月15万円の団体助成金を獲得しました。この交渉の成果で最も大きかったのは、「大阪市に障害者の自立生活の概念、すなわち、障害者が生活保護を得て、アパートを借り、介助者の支援によって生活することを認めてもらった事だった」そして、「このような交渉の経過が

あつて、その後の大阪市と自立生活の研究会を持って、全身性介護人派遣事業や身体障害者グループホーム制度などがあつたんやと思う」とも森さんは語っておられます。

森さんは自立について、「簡単に言えば、自己決定できれば、自立ではないでしょうか。また、自立と言うのは形態ではありません。たとえば、僕は、77年から24時間の介護体制のもとで在宅での自立生活を始めましたが、いわゆる単独で住む自立をしたことはありません。そして、介護調整は、介護者が協力して一緒にやっています。今もそうです。紹介、紹介で健全者に恵まれました」と語ってくれました。

「今の若い障害者には、当時の運動は理解し難いかもしれないが、かつての運動があつて、初めていろいろな制度が出来たことを理解してほしい」そして、最後に「僕たちの自立生活運動が間違っていないかつた事、その運動を誇りに思っている」という力強いお言葉をお聞きして、私は森さんの豊かな人間性に触れると同時にさわやかな思いで帰ってきました。

(定藤邦子)

現在は何かにつけて発達、進歩しているので便利で住みよい世の中になっている。でもいくら便利で使いやすいものができるも、その機能を果たしていない、いわゆる役に立っていないものがある。

たとえば私鉄や地下鉄の車両に車いすを固定する器具がついているが、私はその器具を1度もつけたことがないし、他の人がつけているのも見たことがない。そしてまた車いすトイレや施設の洗面台の上に鏡が取り付けられているが、鏡の位置が高すぎて車いすに乗っている者にとってはとうてい見ることができない。この他にも無駄で役に立っていないものはいくらでもあるが、はっきり言ってこれではないのと同じである。

役に立っていないと言えば、私自身もそ

うらしい。その証拠に家族の者から「手伝わんでもええから邪魔せんといて・・・」とよく言われる。それで私は「夏^{かろとうせん}炉冬扇」というペンネームをつけている。これは「夏

の火ばちと冬の扇」という意味で、どちらも誰も手を出さなくて役に立たない者のたとえである。

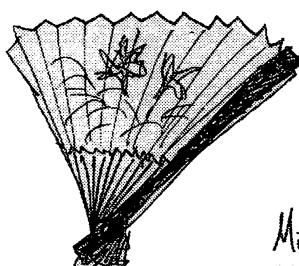
ところで今は亡き作家の武田泰淳氏が「人間というものは煩惱でこね固め、名利で彩色した木偶^{でくのぼう}の坊である」と人間というものを定義されている。「木偶の坊」とは「何の役にも立

たない者、どうしようもない者」という意味だが、武田氏は人間の性というものをいかに深く観察されているかがよく分かり、役に立たないのは私だけではないということにほっとしている。

晴れのち晴れ 83

役立たず

稲垣恵雄



Mi

図書館の快楽

私が近くのスーパーの横にある市立図書館の分館に通い始めたのは、子どもが絵本に関心を持ち始めてからのことだ。それまでは大学の図書館に行くことはあっても、街の図書館に向くことはめつたになかった。



その理由にはいくつかあった。一つには「街の図書館には面白い本など無いだろう」と思っていたことである。

これは大きな間違いだった。わが街の図書館はホームページからすべての図書の検索ができるようになっていて、つまり自宅から本を探せるのである。それを見て、リクエストカードを書き、分館の窓口に出せば、数日後には電話で「本が届きましたよ」と知らせてくれる。実に親切なのだ。

欲しい本が図書館に無ければ、やはりリクエストカードを書く。私は新聞の広告や読書欄を読んでは、新刊書のリクエストカードを出しているが、よほど高価な本でなければ、たいていリクエストは受け入れられてきたように思う。

都会の大きな本屋には、たしかに多くの本があるが、それでも街の図書館の蔵書の数には及ばないだろう。本屋には今、話題の本は山積みしてあるが、五年前、十年前に話題に

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

なつた本は置いていない。しかし、五年や十年たつたところで面白い本はやはり面白いのである。そういう本は図書館にしかない。

街の図書館を使わなかったもう一つの理由は「本は買って読むべきもの」と思い込んでいたことである。これは学生時代に読んだ高名な学者の本に書いてあった。無理をして、借金をしてでも本を買えという主旨であったように思う。

しかし、これも間違いだろう。公共の図書館が充実していなかった昔なら、その言葉は

都会のオアシス

＜サロン・あべの＞では、4月から各区のサロンさんに、それぞれ特徴ある活動のお話を聞かせていただいています。毎月同じテーマでありながら、毎回新しい活動の発見をさせていただいています。また、参加くださる方もサロン活動に関心を持っていただいで、ありがたいことと思っています。その中にサロン作りをしたいとの思いから出会いに参加くださっている方もおられます。各区に出来るサロンは兄弟姉妹のようなつながりを持ちたいと考えていますので、各区の活動を参考にその独自の思いを出せるサロンを発足させて欲しいな、その思いを一つに出来る仲間の人たちも集まるといいなと思っています。サロン活動は仲間作りだと思います。共感・共鳴・共同・共有・協同の喜びがお互いに分かち合えればこそその場ではないかと思えます。その思いを持って新しいサロンが誕生しました。大阪市北区に「サロン北」が、7月16日(土)にオープニングイベントが催されたとお知らせをいただきました。北区は大阪市の表玄関で交通の中心地、商業の中心でもあります。その区内に発足したサロンは、「都会のオアシス」をコンセプトに音楽とアロマ(香り)、そして演奏者や講師方とのフリートーク(井戸端会議)と、盛り沢山な内容を企画されています。次回は8月20日(毎月第3土曜日)午後2時～5時30分、大淀コミュニティーセンターで開催。問い合わせ先; 電話06-6372-8074「たけのこ」 (け)

……さきみみずさん

真実だったのだろうか、いまの図書館は十分に素晴らしい。本など買う必要は無いのである。本ほど高いものはない。数時間で読める本が二千円ぐらいするとしたら、高級レストランのランチセットほどの値段である。金額からいって、毎日、そんなランチセットを食べるわけにはいかないだろう。それに食事なら、よほどまずいものは別として、ある程度の満腹感があるが、本の場合は、読んでも腹立たしいほど虚しいことは珍しくない。

図書館の本なら無料である。ときにはリクエストした本が市立図書館にないために、他の自治体の図書館から本を取り寄せてもらうこともあるが、これもまた無料である。こんな贅沢(ぜいたく)なサービスがどこにあるだろう。このところ私が借りている本は毎週五、六冊である。一冊、千五百円ほどだとすると、毎月少なくとも二十冊として、金額では三万円以上になる。毎月、三万円分もの本が読めるなんて考えただけでも幸せではないか。

読んだ本は手元にないと物足りないという考えもあるだろう。それなら、読書ノートをつけることだ。書名、著者名を書いて、短い感想を書き留めておけば、所蔵している気分を味わえるし、どの図書館で借りたのか書いておけば、またいつでも手にとることができる。文字・活字文化振興法が先月、成立した。これによって、ますます街の図書館は充実することだろう。「図書館、大好き人間」が小躍りする様子が目に浮かぶようなのだ。(知)

赤松 昭

「谷間」に

「ごだわり」続けて

15

「現場と研究の谷間」

前回の教育と現場の谷間の話に続き、今回は現場と研究の谷間について話をします。

この谷間も随分昔からある深い谷間のようです。「大学の先生は現場を知らない」とよく言われます。しかし私は大学教員のはしくれの者として、この間に対して胸をはって言い返したいと思います。「はい、その通りです。大学の教員は現場のことを知らないです」これは居直りでも何でもなく、ある部分で事実です。実際、学術雑誌に並ぶ論文を読

んでいると、時々少し首をかしげたくなる研究に出会うことがあります。例えば、多額の経費を使って大量のアンケート調査を地域の高齢者を対象に行い、「社会参加が高齢者のQOLを向上させることが示唆された」などと、今さら言わずもがなの当たり前の結果を導きだしているものがあります。大きな労力を被調査者にかけておいて、その結果が一体誰のためになっているのか、よく分からない研究があるのも否めません(おそらく、そうした研究は研究者の「業績」として役だっていると思うのですが)。障害者福祉に関わる領域では、さすがにこんな研究論文はあまり見かけられることはありません。しかし、氾濫する「調査」にいい加減うんざりしている現場の方も決して少なくはないはずです。誤解のないように申し上げますが、研究も調査も必要なことに間違いはありません。毎日がすごく忙しい現場の方にとっては、全国的な状況、海外の実情などを紹介する研究は大変有益なものに違いありません。しかし、そうは言っても「研究者に出来ること」「研究の限界」というものはあります。障害当事者の生活の実態はアンケート調査や、1本の

研究論文だけで言い尽くされるものではありません。言い換えれば、こうしたことに自覚的な研究が良いものだとは私は思っています。最近では現場経験のある人が大学教員に登用されるケースも増えてきています。また、障害当事者が研究者となる例もあるようです。こうした方々が今後、現場と研究の谷間を埋めるような働きをされるのが期待されます。しかし、だからといって、こうした人たちがその立場に甘んじて、独りよがりの研究をすることは許されないでしょう。肝心なのはその研究結果が当事者の生活や支援者にどう還元されるかではないでしょうか。

ありがとうございました。

カンパ、お茶・お茶菓子・ジュース・バザー用品などの寄贈、また、サロングッズのお買い上げ、ありがとうございました。

池内沙織、井上礼子、金光弓子、蔵田均、小西京子、阪口悦子、阪口広、下村実幸、竹村定子、辻本浩江、出口正敏、富田万里子、中居澄子、藤井さゆり、松本妙子、

丸山寿美子、宮崎喜代子、柳生幸子、倭栄司、山根匡子、吉原和郎、その他の方々。(敬称略)

美智子のこんな話

岸田美智子

10:00～19:00の時間帯内で相談に応じます。

○連絡先

社会福祉法人あいえる協会

○給 与：面談の上優遇します(研修期間あり)

〒55810002

大阪市住吉区長居西1-9-12キミハウス1階

*最初は何をするか

わからないと思いますが、当センターの先輩

ピアカウンセラーがマンツーマンで業務を教

メール cl-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

TEL 06-6609-3133
FAX 06-6609-3210

「まいど」の障害者スタッフ募集

左記の要領で自立生活センター・MYDO

〇〇まいど〇〇の障害者スタッフを募集します。

記

○仕事内容：入所施設の訪問、ピアカウンセリング、自立生活プログラム、障害者の生活情報全般、通信作成などです。

○資格：将来当センターでピアカウンセラーとして従事し、当センター地域内で自立生活が可能な身体障害者の方。未経験の方でもやる気があればOKです。

○勤務時間：週5日勤務(月～金)

お知らせ

<サロン・あべの>9月の出会い

日時…9月17日(土)午後1時～4時

内容…サロンよいところ、こんなところ

～共に学び、共に語り、共に遊んでみませんか～

お客さま…鈴木昭二さん(ウイズ東淀川 代表)

場所…育徳コミュニティーセンター2階

研修室(スロープ・車いすトイレ有)

大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

TEL. 06-6621-1901

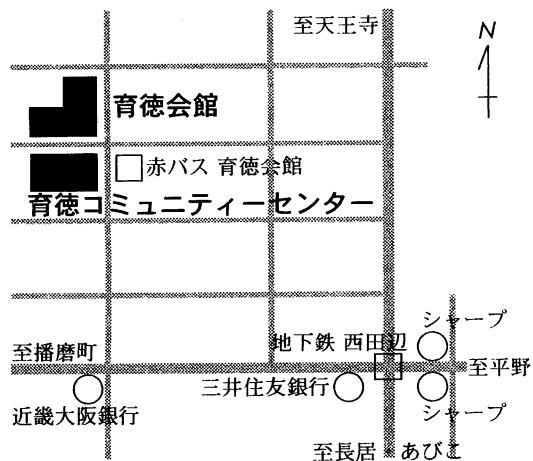
最寄り駅=地下鉄御堂筋線「西田辺」

赤バス「育徳会館」下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



今回は、人に優しく、寝室・リビング・・・どこでもらくらく持ち運びができ、清潔感とおしゃれを演出する、「優遊バッグ」の紹介です。2月の医療・健康福祉産業展でもたいへん好評でした。

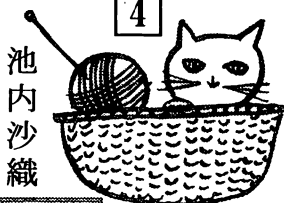
60歳以上のひとり暮らしの女性を何人か、ヘルパーとして関わったことがあります、この人達からいろいろなことを教わりました。その中の一つ、無造作に置かれた大人用のおむつでした。そのパッケージに麗々しく描かれたイラスト・・・。ご本人はたいへん屈

辱だと思いいのですが、一方で仕方ないとあきらめていらっしゃるようでした。この住

- サイズ 38 釐 × 33 釐 × 26 釐
- 重量 370 g
- 抗菌・防臭加工 洗濯機可
- 素材 ポリエステル 80%
ナイロン 20%
- 値段 10290 円 (本体 9800 円)
- 用途
 - ・おむつ袋カバーとして
 - ・赤ちゃんグッズ入れ
 - ・ランジェリー収納袋など、老若男女問わず、使い道もいろいろ。

ひとつずつ
ひとつだけの世界

4



池内沙織

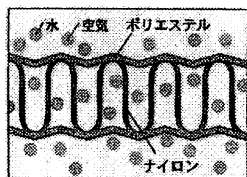


図1



写真

環境では、お友達の訪問もついつい後ろ向きになってしまうのも当たり前。もっと、ベッドサイドをおしゃれに、安全に、清潔、使いやすく作ったのが「優遊バッグ」(写真)です。

一輪の花、キレイに掃除された部屋、それが満たされると不思議に顔も、また洋服も気になります。誰かとお茶でも・・・となります。前向きに生きるためには絶対必要です。ビタミン剤も薬も少なくなります。

- 特徴
 - ・空気層のある二重織 (パイル織=図1) になっており、クッション性と通気性に優れています。
 - ・しわにならず、型くずれしません。
 - ・布製ですから、人に優しく、転んでも大丈夫。
 - ・ポリエステル糸、ナイロン糸を使っていますので、汚れが付きにくく、洗濯後すぐに乾きます。
 - ・前回紹介の「優遊しき布」とのコーディネートも素敵です。

ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま



— 問い合わせ先：手沙織工房 ☆ 池内沙織 —
〒567-0048 茨木市北春日丘4-9-24 井上↑101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail: tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp



SALOON

読組ニュース

9月はどこのサロンの、どのテーマが
気に入りですか。いい出会いませんか。

■「サロン淀川」9月の出会い

日時：9月3日（土）午前11時30分～5時
内容：サロン淀川は今年も淀川区民まつりに参加します～ふれあいコーナーで手作りのおもちゃ、アートバルーンで、遊びましょう。サロンの仲間と楽しい一日を過ごしませんか～

会費：なし

場所：淀川区民センターグラウンド
「サロン淀川」ふれあいコーナー
大阪市淀川区野中南2-1-5

問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビューロー） ☎ 06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」9月の出会い

日時：9月10日（土）午後1時30分～4時
内容：みんなで、点字を学ぼう！
会費：なし
場所：西区在宅サービスセンター6階
ボランティア・ビューロー室
大阪市西区新町4-5-14（西区役所隣）
地下鉄＝西長堀駅4-A号出口からすぐ
市バス＝地下鉄西長堀駅からすぐ
☎ 06-6539-8075

問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■「サロン・にしよど」9月の出会い

日時：9月24日（土）午後12時30分
阪神・姫島駅集合
内容：神戸、布引ハーブ園行き
参加費：無料

但し交通費・入園料などは自己負担

問い合わせ先：中本勝也

☎ 090-9864-9678

河合

☎ 06-6472-1571

■「ウイズ東淀川」9月の出会い

日時：9月11日（日）午後1時30分～4時
内容：未定
パネラー：未定
会費：なし
場所：東淀川区民会館4階・会議室
問い合わせ先：鈴木昭二

☎・FAX 06-6340-3082

■「サロン・いたみ」9月の出会い

日時：9月3日（土）午後2時～
内容：ハンドベル演奏
曲目：「ベルの戯れ」、「ふるさと」他
体験コーナー＝「キラキラ星」
いっしょに歌おう＝「ふるさと」
演奏：聖母被昇天学院の高校生&中学生の方
会費：なし
場所：伸幸苑 [伊丹市寺本6-150]
問い合わせ先：黒野富美子

☎ 072-781-3549

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で<サロン・あべの>紙第229号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) <サロン・あべの>紙は、第1号より第229号までそろっています。
- (b) <サロン・あべの>十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「<サロン・あべの>平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
 - (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝はけっと音訳)
 - (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
 - (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
 - (r) 「勤くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
 - (s) 「たまごが ポン!」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
 - (t) 阿倍野名所旧跡いろはがた(猿田博＝糸でんわ音訳)
 - (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
 - (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送6月26日)の録音テープ
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。

寄りみち



この間、ある人から、20周年記念に「子ども」をモチーフにした絵はがきはどうか。と話がありました。この方の言われるには、サロンでは記念のたびに、「花だより」「出会いの風景」阿倍野を描いた「わがまち阿倍野」(3部作)などを作ってきて、どの絵はがきも好評。(知)さんのエッセイや「晴れのち晴れ」をはじめサロン紙のイラストにある子どもの表情にホッとしたものを感じるから思いついて、既存のシリーズに新しく「子ども」を加えては。(石)

<サロン・あべの>VOL.230 発行：平成17(2005)年8月20日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>